2　Aの計算に当たり、最高区画喫水及び部分的区画喫水については、平らなトリムを用いる。軽荷航海喫水については、実際の航海トリムを用いる。いかなる航行状態においても、計算されたトリムと比較してトリムの変差がLsの〇・五パーセントより大きい場合には、すべての航行状態について、Aの一又は二以上の追加の計算は、同じ喫水であるが異なるトリムについて一の計算について使用された参考トリムと比較してトリムの差がLsの〇・五パーセント未満となるように提示されなければならない。

3　残存復原力曲線の正の復原てこ（GZ）を決定するときは、使用される排水量は、非損傷状態のものとする。すなわち、浮力喪失法による計算が使用されるべきである。

4　1の式によつて示される総和は、単一の区画室又は二以上の隣接する区画室が浸水するすべての場合について船の区画の長さ方向（Ls）にわたつて行われるものとする。非対称な配置の場合には、Aの計算値は、両舷側を含めた計算から得られる平均値とすべきである。これに代えて、最も不利な結果となることが明らかな舷に対応する値を用いてもよい。

5　ウイング区画室が設けられているときは、この式によつて示される総和に対する寄与は、ウイング区画室が浸水するすべての場合について行われる。これに加えて、当該寄与は、ウイング区画室及びこれに隣接する内側の区画室が同時に浸水するすべての場合についても行われるものとする。ただし、横方向の損傷が船舶の幅Bの二分の一より大きい場合を除く。この第七規則の適用上、横方向の損傷は、最高区画喫水の水平面で船体中心線に対し直角に船側から内側に測るものとする。

6　この第七規則の規定に従つて浸水の計算を行うに当たり、船体の損傷は一のみ、かつ、自由表面は一のみを仮定する。仮定する垂直方向の損傷範囲は、基線から喫水線より上方のいずれかの水平水密区画までとする。もつとも、一層小さい垂直方向の損傷範囲が一層重大な結果をもたらす場合には、このような範囲を仮定するものとする。

7　管、ダクト又はトンネルが仮定した損傷の範囲内にある場合には、浸水を仮定した区画室以外の区画室へ浸水が広がらないことを確保する措置をとるものとする。ただし、主管庁は、小規模な浸水の広がりについてその影響を容易に抑制することができ、かつ、船舶の安全が損なわれるものでないことが証明される場合には、当該小規模な浸水の広がりを認めることができる。

第七―一規則　係数piの計算

1　区画室又は区画室群についての係数piは、1.1及び2の規定に従つて次の記号を用いて計算する。

jは、損傷に関係する最後部の区域の番号とし、船尾を第一号とする。

nは、損傷に関係する隣接する損傷区域の数とする。

kは、損傷区域における横方向の貫通に対する障壁としての特定の縦通隔壁の番号とし、外板から中心線に向かつて数える。外板は、k＝0とする。

x1は、Lsの船尾端から当該損傷区域の後端までの距離とする。

x2は、Lsの船尾端から当該損傷区域の前端までの距離とする。

bは、最高区画喫水において外板と仮定した垂直面との間の船体中心線に対し直角に測つた横方向の平均距離とし、メートルで表すものとし、仮定した垂直面は、係数piを計算するに当たり用いる縦方向の限界の間にあり、考慮する縦通隔壁の最も外側の部分の全部又は一部に接し、又は共通するものとする。この垂直面は、外板までの横方向の平均距離が最大になるが、当該垂直面と外板との間の最小距離の二倍を超えないように置くものとする。縦通隔壁の上部が最高区画喫水より下方にある場合には、bの決定のために用いられる垂直面は、最高区画喫水まで達するものと仮定する。いずれの場合においても、bは、$\frac{B}{2}$を超えないものとする。

損傷が単一の区域にのみ関係する場合には、

pi＝p(x1j,x2j)・[r(x1j,x2j,bk)－r(x1j,x2j,bk－1)]

損傷が二の隣接する区域に関係する場合には、

pi＝p(x1j,x2j＋1)・[r(x1j,x2j＋1,bk)－r(x1j,x2j＋1,bk－1)]－p(x1j,x2j)・[r(x1j,x2j,bk)－r(x1j,x2j,bk－1)]－p(x1j＋1,x2j＋1)・[r(x1j＋1,x2j＋1,bk)－r(x1j,x2j＋1,bk－1)]

損傷が三以上の隣接する区域に関係する場合には、

pi＝p(x1j,x2j＋n－1)・[r(x1j,x2j＋n－1,bk)r(x1j,x2j＋n－1,bk－1)]－p(x1j,x2j＋n－2)・[r(x1j,x2j＋n－2,bk)－r(x1j＋1,x2j＋n－1,bk)]－p(x1j＋1,x2j＋n－1)・[r(x1j＋1,x2j＋n－1,bk－1)]－p(x1j＋1,x2j＋n－2)・[r(x1j＋1,x2j＋n－2,bk)－r(x1j＋1,x2j＋n－2,bk－1)]

1.1　これらの場合には、r（x1、x2）は、次の式によつて計算する。

係数p（x1、x2）は、次の式によつて計算する。

$p_0=2\left(\frac{p_k}{J_m}-\frac{1-p_k}{J_{\max}-J_m}\right)$

Ls≧L*のときは、

$J_m=\min\left\{J_{\max},\frac{l_{\max}}{L_S}\right\}$

$J_k=\frac{J_m}{2}+\frac{1-\sqrt{1+(1-2p_k)b_0J_m+\frac{1}{4}b_0{}^2J_m{}^2}}{b_0}$

$b_{12}=b_0$

Ls＞L*のときは、

$J_m{}^*=\min\left\{J_{\max},\frac{l_{\max}}{L^*}\right\}$

$J_k{}^*=\frac{J_m{}^*}{2}+\frac{1-\sqrt{1+(1-2p_k)b_0J_m{}^*+\frac{1}{4}b_0{}^2J_m{}^{*2}}}{b_0}$

$J_m=\frac{J_m{}^*\cdot L^*}{L_S}$

$J_k=\frac{J_k{}^*\cdot L^*}{L_S}$

$b_{12}=2\left(\frac{p_k}{J_k}-\frac{1-p_k}{J_m-J_k}\right)$

$b_{11}=4\frac{1-p_k}{(J_m-J_k)J_k}-2\frac{p_k}{J_k{}^2}$

$b_{21}=-2\frac{1-p_k}{(J_m-J_k)^2}$

$b_{22}=-b_{21}J_m$

損傷長さの無次元値は、

$J=\frac{(x2-x1)}{L_S}$

Jmax＝10/33　正規化された最大完全損傷長さ

Jkn＝5/33　確率分布におけるナックルポイント

pk＝11/12　Jknにおける累積確率

lmax＝60m　最大完全損傷長さ

L*＝260m　正規化された確率分布が終わる長さ

J＝0における確率密度は、